月の仕事始めの1つです。 消防出初め式は、 毎年1月初 垂水

◎消防団体系図

鐘の音と伴に巡回する年末特別 年末が近づいた夜、 消防車の

活動と巡回を行っています。 旬に行われる消防団員が出揃っ ④消防出初め式 起として消防団車両により広報 所に待機し、火災予防の注意喚 期間に各分団の団員が消防団詰 て消防演習を行う儀式であり正 警戒。毎年12月25日から30日の

> P28のまちの話題でご確認くだ 訓練礼式や消防団員として地域 ます。今年の表彰者については、 に尽力した団員の表彰式を行い り垂水市内を行進する市中パ 車両・警察車両・消防団員によ ・ドや観閲式や分列式などの 消防団車両・ 消防本部

## 用して川側斜面の崩壊や洗掘を る総合防災訓練などを中心に訓 の一つです。毎年5月に開催す 基本訓練 女性・学生の団員も 募集しています 進む高齢化

防ぐ水防工法訓練は、

土のう袋とブルーシー

-卜等を活

土砂災害や河川氾濫に備え、

**③年末特別警戒** 練を重ねています。 ②水防工法訓練

その技術向上を行っています。 操法大会があり、全国を挙げて、 児島県消防操法大会、全国消防

ます。特に若い世代については、 代や女性の加入が求められてい 専修学校生等が、在学中に消防 「垂水市学生消防団活動認証制 る傾向にあることから、若い世 言っても過言ではありません。 たちのまちが守られていると 存在です。多くの団員が長年に 防団は地域に無くてはならない わたって活動するからこそ、 まちづくりを進める上で、 団員の平均年齢が上が 大学生や

消防団は、消防署と共に火災や災害への対応、予防啓発活動等を行う消防組織です。 第1分団(中央) 第2分団(協和) 第3分団(柊原) 消防団 消防団長 副団長 第4分団(水之上)

◎消防団の階級と年齢(平成28年4月1日現在) 団長 副団長 分団長 団員 部長 班長 21 未満 1 21~25歳 2 2 26~30歳 22 22 31 ~ 35 歳 27 29 36~40歳 32 32 19 46~50歳 18 23 4 51~55 歳 5 7 18 31 20 4 18 47 56~60歳 4 8 3 10 53 61 歳以上 11 19 46 9 9 19 174 259 66 歳 79 歳 63 歳 61 歳 59 歳 56 歳 43 歳 48 歳 が高いことが分かります。

第6分団(新城) 第7分団(松ヶ崎) 第8分団(牛根) 第9分団(境) ※垂水市消防団の平均年齢 は48歳。全国平均40.5歳、 鹿児島県平均 44.5 歳と比較 すると、垂水市の平均年齢

第5分団(大野)

代に、 ながると考えてます。 討ください にぜひ、消防団への入団をご検 技術と伝統を継承するこ 安心安全なまちづくにつ より多くの若い世 この機会

ることを目的とした制度です。 援し、消防団活動の活性化を図 垂水市が公的にその功績を認証 み、地域社会に貢献した場合に、 団員として消防団活動に取り組 就職活動を支

のほか、同大会優勝分団が出場

で行われる垂水市消防操法大会

する肝属支部消防操法大会、鹿

## 呼ばれる的にめがけて放水し、 設置された防火水槽から給水 様々な訓練・行事に参加してい 分団に編成され、年間を通じて 撤収するまでの一連の手順を行 した基本操作習得の訓練です。 垂水市消防団は団長・副団長 火災現場を想定した火点と 火災消火を想定 うの 特徴である地域密着性・要員動員力・即時対応力で、地域の皆 さんの安心と安全を守るために活動しています。」

を筆頭に、

校区ごとに、9

①消防操法

消防操法は、

## 垂水市を守る9つの消防分団

垂水市消防団と活動

団長

川畑

安正

消防団歴41年







◎垂水市消防団を牽引する2人

消防団歴56年 副団長/瀬脇

「二人とも消防団に携わり40年以上が経過しました。消防団の

第3分団

対象地区は

柊原地区





第8分団 第9分団

◎消防団歴39年 ◎分団長/濱田

◎分団長/山崎 泉

第4分団

水之上地区 団員は 30名です。

う競技です。垂水市内の消防団

第7分団

◎分団長/久保

和美

松ヶ崎地区 団員は 20 名です。

◎消防団歴40年

◎分団長/橋口 雄治

対象地区は 団員は 23 名です。

秀隆

対象地区は 境地区 団員は 26 名です。